



# I コマンド

---

この章では、I で始まる Cisco NX-OS IGMP コマンドについて説明します。

# ip igmp access-group

インターフェイスによってサービスされるサブネット上のホストが加入できるマルチキャストグループのルートマップポリシーによる制御をイネーブルにするには、**ip igmp access-group** コマンドを使用します。ルートマップポリシーをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp access-group** *policy-name*

**no ip igmp access-group** [*policy-name*]

## 構文の説明

*policy-name* ルートマップポリシーの名前です。ルートマップ名には、最大 100 文字の英数字を使用できます。

## コマンド デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**ip igmp access-group** コマンドは、**ip igmp report-policy** コマンドのエイリアスです。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、ルートマップポリシーをイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp access-group my_access_group_policy
switch(config-if)#
```

次の例では、ルートマップポリシーをディセーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp access-group
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp enforce-router-alert

IGMPv2 および IGMPv3 パケットに対する強制的ルータ アラート オプション チェックをイネーブルにするには、**ip igmp enforce-router-alert** コマンドを使用します。オプション チェックをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp enforce-router-alert**

**no ip igmp enforce-router-alert**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

イネーブル

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、強制的ルータ アラート オプション チェックをイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# ip igmp enforce-router-alert
```

次の例では、強制的ルータ アラート オプション チェックをディセーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# no ip igmp enforce-router-alert
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show running-config</b> <b>igmp</b>	IGMP 実行システム コンフィギュレーションに関する情報を表示します。

# ip igmp event-history

IGMP イベント履歴バッファのサイズを設定するには、**ip igmp event-history** コマンドを使用します。デフォルトのバッファ サイズに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp event-history {cli | group-debug | group-events | ha | igmp-internal |
  interface-debug | interface-events | msgs | mtrace | policy | statistics | vrf} size
  buffer-size
```

```
no ip igmp event-history {clis | group-debug | group-events | ha | igmp-internal |
  interface-debug | interface-events | msgs | mtrace | policy | statistics | vrf} size
  buffer-size
```

## 構文の説明

<b>clis</b>	IGMP CLI イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>group-debug</b>	IGMP のグループ デバッグ イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>group-events</b>	IGMP のグループイベント イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>ha</b>	IGMP HA イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>igmp-internal</b>	IGMP の IGMP 内部イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>interface-debug</b>	IGMP のインターフェイス デバッグ イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>interface-events</b>	IGMP のインターフェイスイベント イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>msgs</b>	メッセージ イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>mtrace</b>	IGMP の mtrace イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>policy</b>	IGMP ポリシー イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>statistics</b>	統計情報イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>vrf</b>	IGMP VRF イベント履歴バッファのサイズを設定します。
<b>size</b>	割り当てるバッファのサイズを指定します。
<i>buffer-size</i>	バッファ サイズ。値は <b>disabled</b> 、 <b>large</b> 、 <b>medium</b> 、 <b>small</b> のいずれかです。デフォルトのバッファ サイズは <b>small</b> です。

## コマンド デフォルト

すべての履歴バッファが **small** として割り当てられます。

## コマンド モード

任意のコマンド モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、IGMP HA イベント履歴バッファのサイズを設定する方法を示します。

```
switch(config)# ip igmp event-history ha size large
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear ip igmp event-history</b>	IGMP イベント履歴バッファの内容をクリアします。
<b>show ip igmp event-history</b>	IGMP イベント履歴バッファの情報を表示します。
<b>show running-config igmp</b>	IGMP 実行システム コンフィギュレーションに関する情報を表示します。

# ip igmp flush-routes

IGMP プロセスが再起動されるときにルートを削除するには、**ip igmp flush-routes** コマンドを使用します。ルートをそのままにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp flush-routes**

**no ip igmp flush-routes**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

ルータはフラッシュされません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

フラッシュ ルートが設定されているかどうかを表示するには、次のコマンドラインを使用します。

```
switch(config)# show running-config | include flush-routes
```

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、IGMP プロセスが再起動されたときにルートを削除する方法を示します。

```
switch(config)# ip igmp flush-routes
```

次の例では、IGMP プロセスが再起動されたときにルートをそのままにする方法を示します。

```
switch(config)# no ip igmp flush-routes
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show running-config</b>	実行システム コンフィギュレーションに関する情報を表示します。

# ip igmp group-timeout

IGMPv2 のグループ メンバーシップ タイムアウトを設定するには、**ip igmp group-timeout** コマンドを使用します。デフォルトのタイムアウトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp group-timeout** *timeout*

**no ip igmp group-timeout** [*timeout*]

構文の説明	<i>timeout</i>	秒単位のタイムアウト値です。有効な範囲は 3 ~ 65,535 です。デフォルトは 260 です。
-------	----------------	---

コマンド デフォルト      グループ メンバーシップ タイムアウトは 260 秒です。

コマンド モード      インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン      このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例      次の例では、グループ メンバーシップ タイムアウトを設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp group-timeout 200
switch(config-if)#
```

次の例では、グループ メンバーシップ タイムアウトをデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp group-timeout
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp immediate-leave

グループの Leave メッセージを受信したらすぐにデバイスがマルチキャストルーティングテーブルからグループ エントリを削除できるようにするには、**ip igmp immediate-leave** コマンドを使用します。即時脱退オプションをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp immediate-leave**

**no ip igmp immediate-leave**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

即時脱退機能はディセーブルです。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

特定のグループに対するインターフェイスの後ろに存在するレシーバが 1 つのときにのみ、**ip igmp immediate-leave** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、即時脱退機能をイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp immediate-leave
```

次の例では、即時脱退機能をディセーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp immediate-leave
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。



# ip igmp join-group

マルチキャストグループをインターフェイスにスタティックにバインドするには、**ip igmp join-group** コマンドを使用します。グループバインディングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp join-group {group [source source] | route-map policy-name}
```

```
no ip igmp join-group {group [source source] | route-map policy-name}
```

## 構文の説明

<b>group</b>	マルチキャストグループの IP アドレスです。
<b>source source</b>	(任意) IGMPv3 (S, G) チャンネルの送信元 IP アドレスを設定します。
<b>route-map policy-name</b>	この機能を適用するグループプレフィックスを定義するルートマップポリシー名を指定します。ルートマップ名には、最大 63 文字の英数字を使用できます。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

グループアドレスのみを指定した場合は、(\*, G) ステートが作成されます。送信元アドレスを指定した場合は、(S, G) ステートが作成されます。

ルートマップを使用する場合、ルートマップから読み取られる **match** コマンドは **match ip multicast** コマンドだけです。グループプレフィックスと送信元プレフィックスを指定できます。



(注)

IGMPv3 をイネーブルにした場合にのみ、(S, G) ステートに対して送信元ツリーが作成されます。



注意

このコマンドを入力すると、生成されるトラフィックは、ハードウェアではなくデバイスの CPU で処理されます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、グループをインターフェイスにスタティックにバインドする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp join-group 230.0.0.0
switch(config-if)#
```

次の例では、グループバインディングをインターフェイスから削除する方法を示します。

## ■ ip igmp join-group

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp join-group 230.0.0.0
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp last-member-query-count

ホスト Leave メッセージに対してソフトウェアが IGMP クエリーを送信する回数を設定するには、**ip igmp last-member-query-count** コマンドを使用します。クエリー間隔をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp last-member-query-count** *count*

**no ip igmp last-member-query-count** [*count*]

## 構文の説明

*count* クエリー回数です。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。デフォルトは 2 です。

## コマンド デフォルト

クエリー回数は 2 です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、クエリー回数を設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp last-member-query-count 3
switch(config-if)#
```

次の例では、クエリー回数をデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp last-member-query-count
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp last-member-query-response-time

ソフトウェアがメンバーシップ レポートを送信してからグループ ステートを削除するクエリー間隔を設定するには、**ip igmp last-member-query-response-time** コマンドを使用します。クエリー間隔をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp last-member-query-response-time** *interval*

**no ip igmp last-member-query-response-time** [*interval*]

## 構文の説明

*interval* 秒単位のクエリー間隔です。有効な範囲は 1 ～ 25 です。デフォルトは 1 です。

## コマンド デフォルト

クエリー間隔は 1 秒です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、クエリー間隔を設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp last-member-query-response-time 3
switch(config-if)#
```

次の例では、クエリー間隔をデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp last-member-query-response-time
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp querier-timeout

クエリアとして引き継ぐことを決定するときにソフトウェアが使用するクエリア タイムアウトを設定するには、**ip igmp querier-timeout** コマンドを使用します。クエリア タイムアウトをデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp querier-timeout** *timeout*

**no ip igmp querier-timeout** [*timeout*]

## 構文の説明

<i>timeout</i>	秒単位のタイムアウト値です。有効な範囲は 1 ~ 65,535 です。デフォルトは 255 です。
----------------	---

## コマンド デフォルト

クエリア タイムアウトは 255 秒です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**ip igmp query-timeout** コマンドは、このコマンドの代替形式です。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、クエリア タイムアウトを設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp querier-timeout 200
switch(config-if)#
```

次の例では、クエリア タイムアウトをデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp querier-timeout
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ip igmp query-timeout</b>	クエリア タイムアウトを設定します。
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp query-interval

IGMP プロセス開始時に使用されるクエリー間隔を設定するには、**ip igmp query-interval** コマンドを使用します。クエリー間隔をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp query-interval** *interval*

**no ip igmp query-interval** [*interval*]

## 構文の説明

*interval* 間隔（秒単位）。有効な範囲は 1 ～ 18,000 です。デフォルトは 125 です。

## コマンド デフォルト

クエリー間隔は 125 秒です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、クエリー間隔を設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp query-interval 100
switch(config-if)#
```

次の例では、クエリー間隔をデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp query-interval
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp query-max-response-time

IGMP クエリーでアドバタイズされる最大クエリー応答時間を設定するには、**ip igmp query-max-response-time** コマンドを使用します。応答時間をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp query-max-response-time** *time*

**no ip igmp query-max-response-time** [*time*]

## 構文の説明

*time* 秒単位の最大クエリー応答時間です。有効な範囲は 1 ～ 25 です。デフォルトは 10 です。

## コマンド デフォルト

最大クエリー応答時間は 10 秒です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、最大クエリー応答時間を設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp query-max-response-time 15
switch(config-if)#
```

次の例では、最大クエリー応答時間をデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp query-max-response-time
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp query-timeout

クエリアとして引き継ぐことを決定するときにソフトウェアが使用するクエリー タイムアウトを設定するには、**ip igmp query-timeout** コマンドを使用します。クエリア タイムアウトをデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp query-timeout** *timeout*

**no ip igmp query-timeout** [*timeout*]

## 構文の説明

*timeout* 秒単位のタイムアウト値です。有効な範囲は 1 ～ 65,535 です。デフォルトは 255 です。

## コマンド デフォルト

クエリー タイムアウトは 255 秒です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**ip igmp querier-timeout** コマンドは、このコマンドの代替形式です。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、クエリア タイムアウトを設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp query-timeout 200
switch(config-if)#
```

次の例では、クエリア タイムアウトをデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp query-timeout
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ip igmp querier-timeout</b>	クエリア タイムアウトを設定します。
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。



# ip igmp report-link-local-groups

IGMP がリンクローカル グループに対してレポートを送信できるようにするには、**ip igmp report-link-local-groups** コマンドを使用します。リンクローカル グループへのレポートの送信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp report-link-local-groups**

**no ip igmp report-link-local-groups**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、リンクローカル グループへのレポートの送信をイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp report-link-local-groups
switch(config-if)#
```

次の例では、リンクローカル グループへのレポートの送信をディセーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp report-link-local-groups
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp report-policy

IGMP レポートに対するルート マップ ポリシーに基づくアクセス ポリシーをイネーブルにするには、**ip igmp report-policy** コマンドを使用します。ルート マップ ポリシーをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp report-policy** *policy-name*

**no ip igmp report-policy** [*policy-name*]

## 構文の説明

*policy-name* ルート マップ ポリシーの名前です。ルートの名前は最大 100 文字の英数字です。

## コマンド デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

着信メッセージをフィルタリングするには、**ip igmp report-policy** コマンドを使用します。マルチキャスト ルーティング テーブルにステートが作成されないように、ルート マップを設定できます。

**ip igmp report-policy** コマンドは、**ip igmp access-group** コマンドのエイリアスです。

ルート マップを使用する場合、ルート マップから読み取られる **match** コマンドは **match ip multicast** コマンドだけです。グループ プレフィックス、グループ範囲、および送信元プレフィックスを指定して、メッセージをフィルタリングできます。

このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

## 例

次の例では、IGMP レポートに対するアクセス ポリシーをイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp report-policy my_report_policy
switch(config-if)#
```

次の例では、IGMP レポートに対するアクセス ポリシーをディセーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp report-policy
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp robustness-variable

輻輳状態のネットワークで予想されるパケット損失を反映するように調整できるロバストネス カウントを設定するには、**ip igmp robustness-variable** コマンドを使用します。カウントをデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp robustness-variable** *count*

**no ip igmp robustness-variable** [*count*]

## 構文の説明

*count*                      ロバストネス カウントです。指定できる範囲は 1 ～ 7 です。デフォルトは 2 です。

## コマンド デフォルト

ロバストネス カウントは 2 です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、ロバストネス カウントを設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp robustness-variable 3
switch(config-if)#
```

次の例では、ロバストネス カウントをデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp robustness-variable
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp ssm-translate

IGMPv1 または IGMPv2 メンバーシップ レポートを変換し、ルータがレポートを IGMPv3 メンバーシップ レポートとして扱うように (S, G) ステートを作成するには、**ip igmp ssm-translate** コマンドを使用します。変換を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp ssm-translate group source**

**no ip igmp ssm-translate group source**

## 構文の説明

<i>group</i>	IPv4 マルチキャスト グループ範囲です。グループ プレフィックスのデフォルト範囲は、232.0.0.0/8 です。IPv4 Protocol Independent Multicast (PIM) の SSM 範囲の変更については、 <b>ip pim ssm range</b> コマンドを参照してください。
<i>source</i>	IP マルチキャスト アドレス ソースです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード  
VRF コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

SSM 変換コマンドを表示するには、次のコマンドラインを使用します。

```
switch(config)# show running-config | include ssm-translation
```

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、変換を設定する方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip igmp ssm-translate 232.0.0.0/8 10.1.1.1
switch(config)#
```

次の例では、変換を削除する方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no ip igmp ssm-translate 232.0.0.0/8 10.1.1.1
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show running-config</b>	実行システム コンフィギュレーションに関する情報を表示します。

# ip igmp startup-query-count

IGMP プロセス開始時に使用されるクエリー回数を設定するには、**ip igmp startup-query-count** コマンドを使用します。クエリー回数をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp startup-query-count** *count*

**no ip igmp startup-query-count** [*count*]

## 構文の説明

*count* クエリー回数です。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。デフォルトは 2 です。

## コマンド デフォルト

クエリー回数は 2 です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、クエリー回数を設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp startup-query-count 3
switch(config-if)#
```

次の例では、クエリー回数をデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp startup-query-count
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp startup-query-interval

IGMP プロセス開始時に使用されるクエリ間隔を設定するには、**ip igmp startup-query-interval** コマンドを使用します。クエリ間隔をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp startup-query-interval** *interval*

**no ip igmp startup-query-interval** [*interval*]

## 構文の説明

*interval* 秒単位のクエリ間隔です。有効な範囲は 1 ～ 18,000 です。デフォルトは 31 です。

## コマンド デフォルト

クエリ間隔は 31 秒です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、開始時クエリ間隔を設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp startup-query-interval 25
switch(config-if)#
```

次の例では、開始時クエリ間隔をデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp startup-query-interval
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp state-limit

最大許可ステート数を設定するには、**ip igmp state-limit** コマンドを使用します。ステート制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp state-limit** *max-states* [**reserved** *reserve-policy max-reserved*]

**no ip igmp state-limit** [*max-states* [**reserved** *reserve-policy max-reserved*]]

## 構文の説明

<i>max-states</i>	最大許可ステート数です。1 ~ 4,294,967,295 の数値を指定できます。
<b>reserved</b> <i>reserve-policy</i> <i>max-reserved</i>	(任意) 予約ポリシーに使用するルート マップ ポリシー名を指定します。ルート マップ名には、最大 100 文字の英数字を使用できます。
<i>max-reserved</i>	(任意) インターフェイスで許可される (*, G) および (S, G) エントリの最大数。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、ステート制限を設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp state-limit 5000
switch(config-if)#
```

次の例では、ステート制限を削除する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp state-limit
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。

# ip igmp static-oif

マルチキャスト グループを **Outgoing Interface (OIF; 発信インターフェイス)** にスタティックにバインドし、デバイスのハードウェアで処理するには、**ip igmp static-oif** コマンドを使用します。スタティック グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip igmp static-oif {group [source source] | route-map policy-name}
```

```
no ip igmp static-oif {group [source source] | route-map policy-name}
```

## 構文の説明

<b>group</b>	マルチキャスト グループの IPv4 アドレスです。グループ アドレスのみを指定した場合は、(*, G) ステートが作成されます。
<b>source source</b>	(任意) IGMPv3 の送信元 IP アドレスを設定し、(S, G) ステートを作成します。 (注) IGMPv3 をイネーブルにした場合にのみ、(S, G) ステートに対して送信元ツリーが作成されます。
<b>route-map policy-name</b>	この機能を適用するグループプレフィックスを定義するルートマップ ポリシー名を指定します。ルート マップ名には、最大 63 文字の英数字を使用できます。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**ip pim sparse-mode** コマンドを使用して、インターフェイスで Protocol Independent Multicast (PIM) がイネーブルであることを確認します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、グループを OIF にスタティックにバインドする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip igmp static-oif 230.0.0.0
switch(config-if)#
```

次の例では、OIF からスタティック バインディングを削除する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# no ip igmp static oif 230.0.0.0
switch(config-if)#
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ip pim sparse-mode</b>	インターフェイスで IPv4 PIM スパース モードをイネーブルにします。
<b>no switchport</b>	インターフェイスを、ルーテッドインターフェイスとして設定します。
<b>show ip igmp local-groups</b>	IGMP ローカル グループ メンバーシップに関する情報を表示します。

# ip igmp version

インターフェイスで使用する IGMP のバージョンを設定するには、**ip igmp version** コマンドを使用します。IGMP のバージョンをデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp version** *version*

**no ip igmp version** [*version*]

## 構文の説明

*version* バージョン番号。番号は 2 または 3 です。デフォルトは 2 です。

## コマンド デフォルト

バージョン番号は 2 です。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、インターフェイスで使用する IGMP のバージョンを設定する方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ip igmp version 3
switch(config-if)#
```

次の例では、IGMP のバージョンをデフォルトにリセットする方法を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# no ip igmp version
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip igmp interface</b>	インターフェイスに関する IGMP 情報を表示します。